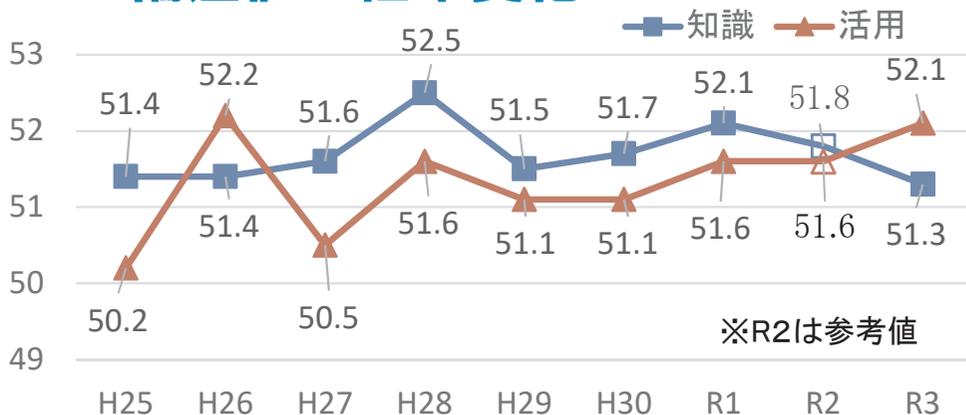


※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの。

結果のポイント

1 偏差値の経年変化



○知識と活用ともに偏差値50を上回っている。

3 領域別の結果

領域	県正答率	全国正答率	目標値
言葉の特徴や使い方に関する事項	76.7	73.6	68.5
情報の扱い方に関する事項	53.8	51.4	53.3
我が国の言語文化に関する事項	82.5	86.6	75.0
話すこと・聞くこと	60.6	58.8	57.0
書くこと	71.2	56.7	58.8
読むこと	69.9	69.4	67.5

○全ての領域において、目標値を上回っている。

▲「我が国の言語文化に関する事項」において、全国正答率を4.1P下回っている。

2 観点別の結果

観点	県正答率	全国正答率	目標値
知識・技能	72.2	69.8	65.7
思考・判断・表現	67.1	62.5	61.7
主体的に学習に取り組む態度	66.0	56.0	56.0

○全ての観点において、全国正答率及び目標値を上回っている。

4 解答形式別の結果

解答形式	県正答率	全国正答率	目標値
選択	70.1	69.2	66.5
短答	80.2	78.2	72.9
記述	65.9	55.3	55.0

○全ての解答形式において、全国正答率及び目標値を上回っている。

■ つまづきが見られた問題

大問1(2) 目標値60.0% 県正答率50.6%

「伝えたいことが明確になるような表現の工夫」

◇話の中心を明確にするために、話し手の工夫を捉えているかどうかをみる。

▲相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えることに課題がある。

大問5(2) 目標値50.0% 県正答率42.6%

「説明的文章の構造と内容の把握」「情報と情報との関係の理解」

◇情報と情報との関係について理解し、段落相互の関係を捉えているかどうかをみる。

▲叙述をもとに書き手の考えがどのような理由によって説明されているかを捉えることに課題がある。

◆ 指導のポイント

○5・6年生の以下の指導事項について指導の充実を図ること。

〔話すこと・聞くこと〕

➤「話の内容が明確になるように」するためには、事実と感想、意見を区別したり、詳しい説明を加えたりすることが必要であることを理解させる。

〔読むこと〕

➤事実と感想、意見などとの関係を叙述をもとに押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することと〔情報の整理〕との関連を図り指導の効果を高める。

★ 指導の具体例

単元名 「学校をよりよくするための提案をしよう」

〈学習活動〉理由を明確にしたり説明を加えたりして、自分の考えが相手に伝わるように、提案する。

○話し合いのテーマ「学校をよりよくする方法」について自分の考えをもつ。

・テーマについての自分の考えをイメージマップに整理させる。

・イメージマップから最も良いと思うものを1つ選び、理由付けを行う。

○聞き手を納得させるため、伝える際の工夫を考え、原稿を作成する。

・各自の考えとその理由をグループで交流する。

・友達の提案を聞き、「納得できるかどうか」を評価する。

・聞き手に納得してもらうための工夫について考える。

→理由に自分の経験を加える

→具体例を示して、分かりやすくする 等

・構成を考えてスピーチ原稿を書く。

○発表会をして学習を振り返る。

・聞き手は、メモを取りながら、分からない点やもっと聞きたい点について、発表者に質問する。

・提案内容や発表の仕方について、それぞれ良かったところや感想を伝え合う。